

会報発行に寄せて

ある架空の結婚式での祝辞

キャパシタフォーラム会長 堀 洋一（東京理科大学）

丁君、Y子さん、ご結婚おめでとう。ご両家の皆さま、まことにおめでとうございます。

丁君は、国の防衛に関わる研究所にお勤めで、私もその研究所の評価委員会をしたり、特殊車両の電動化に関してアドバイスをする立場にあたりしたこともあり、ご縁は浅くない。丁君は、W大学から丁大大学院に来て、私のところで、電気自動車へのワイヤレス給電の研究、とくに3相交流を使って新しいことができないかという草分け的研究を行った。このテーマは未完成でありいつか再開したいと思っている。

Y子さんは、農学を勉強し、いまは高速道路会社でSAの造園設計をしているとのこと。趣味は鉄道旅行と伺っている。いま走行中給

電による道路の電化は極めて重要な施策であり、自分は鉄道好きで、退職後はヨーロッパ、自分は鉄道好きで、退職後はヨーロッパ、鉄道三昧の予定だったのでご縁がある。

まず、丁君はただものではない。鉄道の知識ひとつをとっても尋常ではなく、蒸気機関や遠心調速機まわりの情報交換をしたことがあるが、鉄道マニア独特のねちっこい性格には舌をまいた。ものごとを大所高所から俯瞰して見るという精神が、天性のものとして身につけている。それが研究のセンスや、今の職を選んだことにつながっているのだろう。さて、ご存知のように、昨年COP26が閉幕し、CZ（カーボンニュートラル）やSDGsなどの旗印のもと、世界は持続的繁栄に向けて舵を切っている。しかし、この「世界」

に「日本」は入っていないのではないか。いま、自動車技術会の副会長をしているが、日本の産業を守る、とくに、日本の自動車産業を守りながら世界に貢献する、という視点がすっぱり抜けている。

たとえば、クルマの電動化や再エネの大量導入は、膨大な量の二次電池を必要とする。しかしその電池の生産はもう国内ではできない。日本の電源構成はCZを出しまくるから、作つてはいけないと世界の集中攻撃に合っている。せっかくなので電池を發明しても、生産は自国ではできないのである。同じようにCZを出しまくる中国は詭弁を弄して世界制覇を目指し（中国の電池はすべてきれいな電力で生産していると言いつ張るだろう）、ドイツなど欧州がこれに賛同する。ドイツはフランスの原子力を使ったきれいな電気があるためである。

再エネ導入のための電池は中国から大量に購入し、彼の国を潤す。COP26の目標は多

くの国で達成できずに終わり、ごめんない、になるだろう。その中で、日本だけが脱炭素を真面目にやる。高性能電池を開発するのはいいけれど、疑いもせずに日本の自動車産業や石炭火力をつぶしたりする。これらはそのまま中国と欧州を利する。もし日本に再エネが十分行き渡るときが来たとしても、その頃には日本は貧乏国になり自らは舞台から姿を消す。世界は平和になって日本は滅ぶ。

私にはこの構図が明白に見える。しかし、脱炭素やクルマの電動化が進まない日本は、このままでは世界に遅れてガラパゴスになると「まじめすぎて困ったちゃん」有識者が語り、政府は翻弄される。優等生でいれば、僕ちゃんよくできましたね、などと褒められ、世界は日本を見放すことはあるまい、ということなんとも甘ったれた思考パターンである。もうそろそろ大人にならなくてはならない。石炭火力の効率化に成した日本の多大なる貢献は、世界の場で誰ひとりとして養護してくれ

ないことから明白である。

すなわち「敵は本能寺にあり」である。世界はこの日本の精神構造を知り尽くし、手を下すことなく喜んで見ている。高邁な目標を提示すれば、素直な日本は中でつぶし合って自滅するだろう。中国は、いや、世界は実にしたたかである。世界は持続しても日本はつぶれる。それは世界にとっては痛くも痒くもない。トヨタがいなくなれば、GMは大喜びである。もし私が日本を嫌いな外国人であれば、同じことをするであろう。鬼は悠然と人間を見ていればよい。まさに鬼滅の刃ならぬ、自滅の刃であります。

私は、いま日本に必要なのは、(1) 安全な原子力発電所の再稼働、(2) 効率率のよいエンジン車やハイブリッド車の普及、そして(3) 電池からの脱却、この3点であると考ええる。これを政治家は世界に向けて堂々と発信しなくてはいけない。

というようなことを、もう私は失うものは

何もないので、声高に発言しています。丁君はどうでしょうか。早く偉くなつて、さまざまな場面において、正直な意見を堂々と述べていただきたいと願うものであります。いまはまだ、失うものがありそうですから、くれぐれも慎重にね。まあ、この失うものがあるという保身というスタンスが、日本人の魂を骨抜きにしているのではあります。自分がボシヤっては何もりませんからね。

最後に、今年の自動車技術会誌の「年頭のご挨拶」に書いた、わが国が改ためるべき3点を紹介します。

(1) 白黒つける習慣をやめる
日本人はなんでも白黒つけたがりです。ガソリン車と電気自動車はどっちがCZですか？電池とキャパシタはどっちがいいのですか？原子力ですか再エネですか？どちらにも価値があるのです。共存を認めず、二者を対立させて白黒つけたがり、選択と集中という、私の大嫌いな言葉がまかりとおります。日本人

は多様性に弱いといいますが、まっことそのとおりですよ。みなさん絶対にやっていただきますから、胸に手をあてて考えてみてください。たいへんよくないことです。

(2) 短期の成果を求めない

「やって良いことが書いてある」我国のルール作りがこの根源にあります。ルールブックに「やってはいけないことが書いてある」諸外国とは正反対です。国の研究プロジェクトでも「やることは全部」書く必要があります。もし書いていないと、OOはやらないのか？と有識者が鬼の首をとったように言い、追記を要求します。そして「書いたことはやらなければならぬ」ことになります。これがいけない。書いたことが年度末に完了していないと最低評価をくらって翌年の予算がゼロになります。将来を見通す準備ができた、という超貴重な成果よりも達成率が重要です。これでは、だれもチャレンジングなことはしません。君の研究は大丈夫でしょうか？

(3) 棲み分けを求めない

どこかでよく似たプロジェクトを見つけてきて、あれとはどこが違うのか、と有識者が棲み分けを要求します。それが新規性、獨創性だと勘違いしているのです。たくさんの方が似たことをやるのは、その技術が重要である証左です。とにかくなにか妙だな、と思つたら、小さな組織での保身のために迎合したりしないで、きちんと反論しましょう。綺麗な文書を作るのではなく、本当に意味のある技術開発をしなければなりません。手先のワープロだけで仕事をするようになったらおしまいです。

最後にも一つ。高名な有識者の意見を聞きすぎてはいけません。有識者の多くは自分の成功体験を自慢に思っていて、何にでも当てはめようとします。あなた老書になつていきますよ、そろそろ潮時ですよ、と言ってくれる友人がいない悲しい人々なのです。

以上3つが「やってはいけないこと」です。

それ以外は自由にやりましょう。

結婚式の祝辞らしくないかと思いますが、これは私が期待するT君たちへの真面目なメッセージです。T君が当たりさわりのない、平坦な人生を送るとはとても思えません。Y子さんは、それを見抜き、百も承知でこの男を夫に選んだのでしょうか。どうぞ、2人で世界をよく見ながら、正直に、堂々と、人生を歩んでもらいたい。以上です、今日はおめでとう！

(じつは架空の結婚式ではなく、昨年12月に実際の結婚式で行った主賓スピーチです。たいへん好評でした。)